

科学技術イノベーション政策の 現状と課題について (参考資料)

平成25年3月1日

内閣府特命担当大臣(科学技術政策)

山本 一太

科学技術イノベーションに関する安倍総理の発言・指示

○所信表明演説(平成25年1月28日)

「我が国にとって最大かつ喫緊の課題は、経済の再生です。

私が何故、数ある課題のうち経済の再生に最もこだわるのか。それは、長引くデフレや円高が、「頑張る人は報われる」という社会の信頼の基盤を根底から揺るがしていると考えからです。(略)

イノベーションと制度改革は、社会的課題の解決に結び付くことによって、暮らしに新しい価値をもたらし、経済再生の原動力となります。

最も大切なのは、未知の領域に果敢に挑戦をしていく精神です。皆さん、今こそ、世界一を目指していこうではありませんか。」

○施政方針演説(平成25年2月28日)

「「世界で最もイノベーションに適した国」を創り上げます。総合科学技術会議が、その司令塔です。」

○第1回日本経済再生本部(平成25年1月8日)

「山本科学技術政策担当大臣におかれては、今後、この本部と総合科学技術会議と、この2つが密接に連携することにより、省庁横断的なイノベーション政策の推進体制を作って頂きたいと思います。」

○第3回日本経済再生本部(平成25年1月25日)

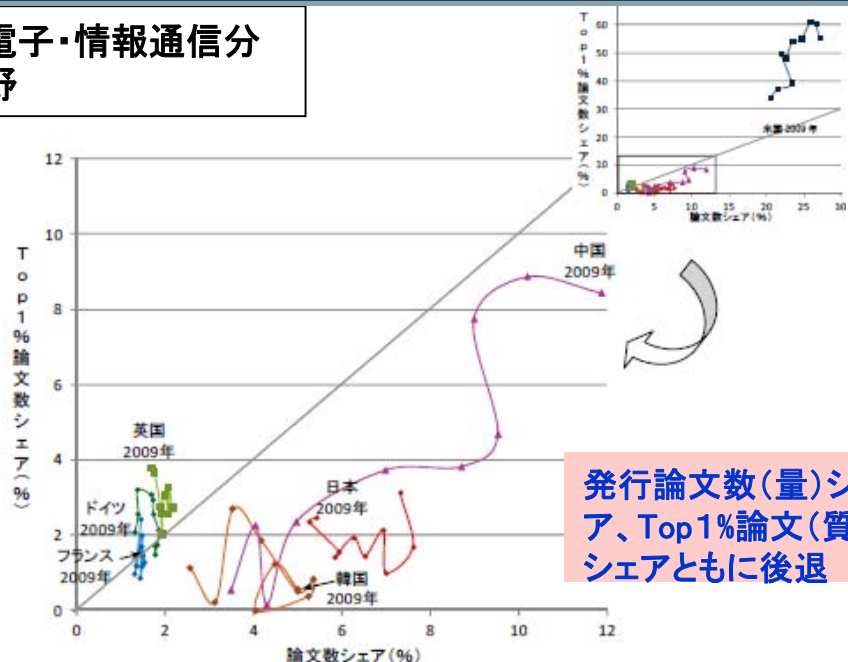
「内閣府特命担当大臣(科学技術政策)は関係大臣と協力して、課題解決志向を重視した研究開発を推進する科学技術・イノベーション立国を実現するため、総合科学技術会議の司令塔機能の抜本的強化を図ること。これにより、世界で最もイノベーションに適した環境を整え、世界から最高水準の人材が集積するような社会を実現すること。」

○第4回日本経済再生本部(平成25年2月26日)

「総合科学技術会議の司令塔機能について、省庁縦割り打破を図るため、権限、予算両面においてこれまでにない強力な推進力を発揮できるよう、その在り方を含め、抜本的な強化策の具体化を山本科学技術政策担当大臣にお願いしたい。」

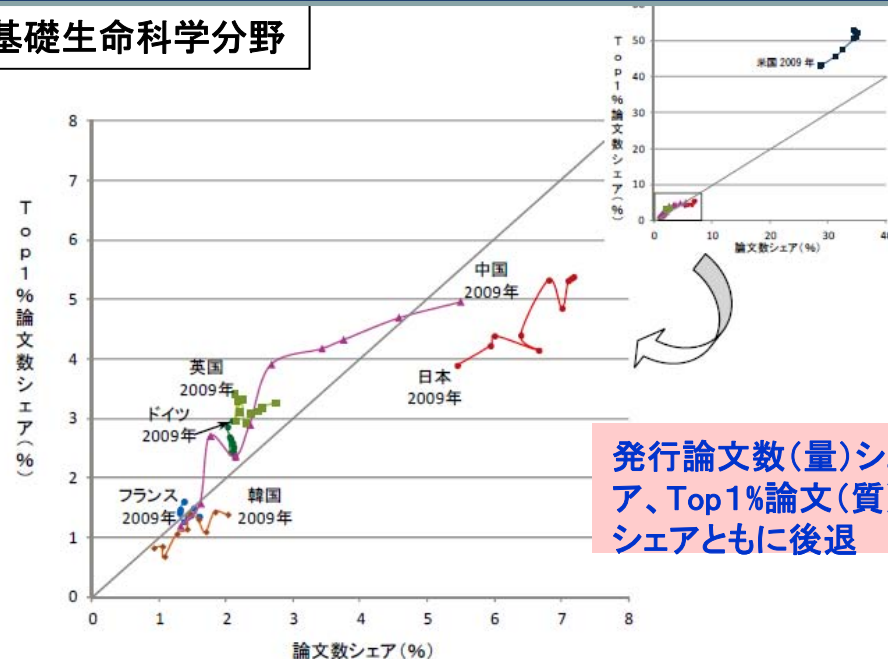
主要分野における論文数及び被引用数トップ1%論文数の国際シェア比較

電子・情報通信分野



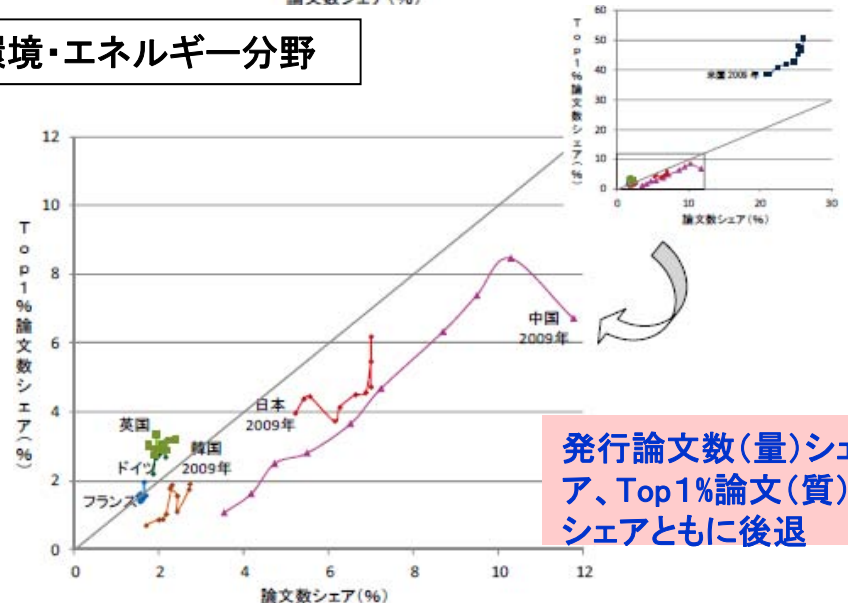
発行論文数(量)シェア、Top1%論文(質)シェアともに後退

基礎生命科学分野



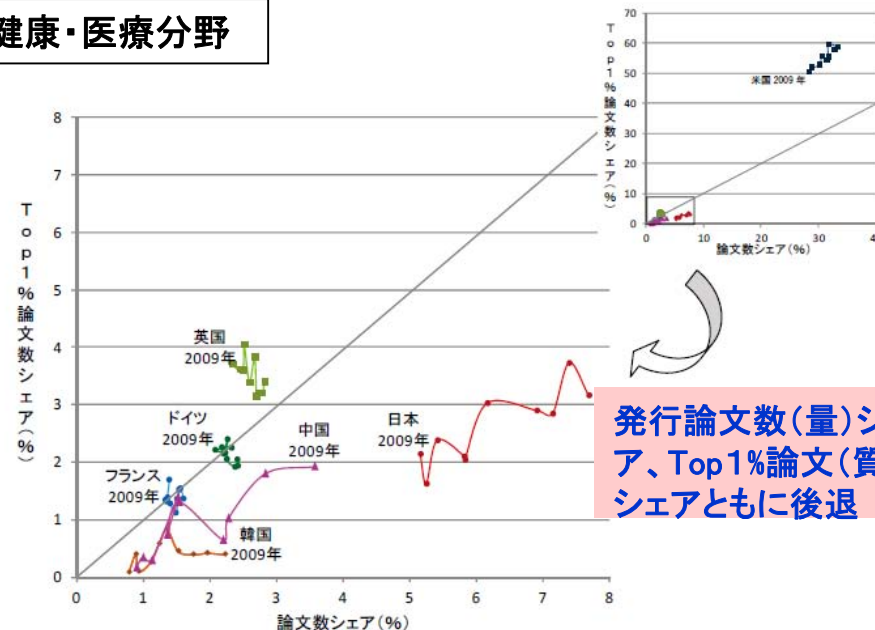
発行論文数(量)シェア、Top1%論文(質)シェアともに後退

環境・エネルギー分野



発行論文数(量)シェア、Top1%論文(質)シェアともに後退

健康・医療分野



発行論文数(量)シェア、Top1%論文(質)シェアともに後退

(注) 各座標は、2000年PPPから2009年の各年における論文数(横軸)、引用数が多かった上位1%の論文数(縦軸)のシェアを表す。

我が国の科学技術イノベーション政策体系

長期戦略指針「イノベーション25」

2005年度

2006～2010年度

2011～2016年度

第1,2期

第3期科学技術基本計画

【第2期の課題】

国民の多くは、科学技術が社会に貢献していると感じる一方、親しみを感じる人は少なく、若年層を中心として関心が低下。また、欧米諸国やアジア諸国において優秀な人材育成が科学技術力の基盤として認識され、国際的な人材争奪競争が現実化。

政府研究開発投資の効果を最大限に発揮する、基礎研究の着実な推進とともに、政策課題対応型研究開発の戦略的重点化が必要。

【第3期のポイント】

- 社会・国民に支持され、成果を還元する科学技術
- 人材育成と競争的環境の重視 ～ モノから人へ、機関における個人の重視
- 重点推進4分野※1、推進4分野※2において**分野別推進戦略**を策定
※1) ライフサイエンス、情報通信、環境、ナノテクノロジー・材料
※2) エネルギー、ものづくり技術、社会基盤、フロンティア

第4期科学技術基本計画

【第3期の課題】

重点推進4分野、推進4分野において、重点的な研究開発が推進され、多くの革新的技術が創出されているが、個々の成果が社会的な課題の達成に結びついていない。

【第4期のポイント】

○「科学技術イノベーション政策」の一体的展開

新たな価値の創造に向けて、我が国や世界が直面する課題を特定した上で、課題達成のために科学技術を戦略的に活用し、その成果の社会への還元を一層促進するとともに、イノベーションの源泉となる科学技術を着実に振興。

○我が国が抱える喫緊の社会的課題を設定

「震災からの復興、再生」、「エネルギーの安定確保と気候変動問題への対応」、「高齢化への対応」

科学技術関係施策に対する優先度判定

概算要求後に、質の高い科学技術予算の編成に向けて、CSTPが各府省の**施策を網羅的にヒアリング**した上で、S(特に重要)、A(重要)、B(必要・効率的に実施すべき)、C(一部不適切・実施すべきでない)の4段階で評価する**優先度判定**を実施

(成果) 研究開発の動向、社会ニーズの変化等を勘案して、限られた資源の効率・効果的な配分に向けて、専門的知見に基づき、府省連携、重複排除の観点から総合科学技術会議がイニシアチブを發揮して第3期基本計画の「分野別推進型」を推進

→ (課題) 対象が網羅的・総花的、概算要求後の府省連携・重複排除の限界 等

科学技術重要施策アクションプラン

第4期基本計画で「分野別推進型」から「課題解決型」に変わったことを踏まえ、**SABC評価を発展させ**、新たな予算重点化の仕組みを導入

○概算要求前に、総合科学技術会議が我が国の課題解決に向けて最も重要と考える分野を絞込み施策の方向性を**アクションプラン**として詳細な形で示し、**予算の最重点化に向けて、各府省の施策を誘導**(産学官の幅広い関係者で構成する協議会で検討)

○アクションプラン対象施策特定の過程で、各省との協働により、**府省連携の促進、取組の重複排除**を進めつつ、各省施策をブラッシュアップ。

(成果) 総合科学技術会議が概算要求前から各省施策の誘導、府省連携・重複排除を進めることで更なるイニシアチブを發揮し、第4期基本計画の「社会的課題の解決」を推進

年間のPDCAサイクルによる工程管理